

持木一茂氏が無投票再選。 二期目の抱負を語る。

任期満了に伴う能登町長選挙は、3月24日に告示されました。立候補届け出締め切りの結果、持木一茂氏（53）＝無現＝の無投票再選が決まりました。能登町初代町長として、引き続き町政を担うことになった持木町長に二期目の抱負を伺いました。



告示日翌日の3月25日には、能登庁舎職員が持木町長の初登庁を拍手で出迎えました。

就任のごあいさつ

この度、町民の皆さまをはじめ、各方面からのご支援とご厚情によりまして再選の誉に浴し、引き続き能登町長の重責を担うことになりました。再び、町のために汗を流すことができるという喜びとともに、前回就任した時以上の緊張感をもって、4月10日、二期目の朝を迎えました。

これまでの4年間は、町の礎を固めるために、町内の融和や財政健全化に向けて、町民の皆さまのご協力を得ながら町政を進めて参りました。途中、能登半島地震や、集中豪雨などの自然災害も経験しましたが、前向きに復興に取り組む姿を拝見し、その度に町は皆さまと共に創造して行かなければならないと心に誓ったところです。

今後、希望ある能登町を創造するた



持木 一茂

【プロフィール】昭和31年1月25日、能登町宇出津に生まれる。岐阜歯科大学を卒業後、宇出津で持木歯科医院を開業。のちJIC理事長などを歴任し、平成11年12月から旧能都町長。平成17年4月に能登町初代町長に就任する。53歳。

めに、「人づくり」「福祉充実」「産業振興」「定住・交流拡大」を私の基本指針として、町の総合計画にのっとり「奥能登にひと・くらしが輝くふれあいのまち」を目指してまい進する所存です。

皆さまにご心配をお掛けいたしました町の財政状況は、若干持ち直しつつあります。しかし昨今の経済情勢をかんがみて、気を緩めることなく歳出の削減に努めながら、能登町の人や自然といった、今ある宝物がさらに光を放つよう、あらゆる施策を講じてまいります。

今後とも、皆さまのご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

能登町長 持木一茂

―無投票再選という結果について

合併してまだ4年という住民の皆さんの判断もあったかと思う。無投票ということで逆に責任の重さを感じているし、期待も大きいと思っている。この4年間は住民の皆さんに我慢してもらったことも多かったが、町の事情も理解していただいた部分もあると思っている。

―今回の選挙活動で掲げたことは

基本指針に①人づくり②福祉充実③産業振興④定住・交流拡大―の4つを掲げた。町の総合計画に沿ったものでもある。わたしは行政の一番大切なことは福祉・教育・防災―の3つだと常に考えている。そのためにも、子どもたちの教育は大切であり、現在の小中学校の数が適正かどうか、また将来の能登町の教育の在り方はどうあるべきかなどを審議してもらった審議会を立ち上げたいと考えている。福祉については、厳しい財政状況ではあるが、他の市町には負けない福祉サービスはしていかなければならない。

―一期目の4年間を振り返って

それぞれ50年近い歴史がある2町1村が合併して能登町が生まれた。少しずつ



当選証書付与式は、3月31日に能都庁舎で行われ、桶屋政雄選挙管理委員長から持木一茂町長に当選証書が手渡されました。委員長からの「厳しい財政状況での船出となったが新しい発想で能登町の未来を切り開いてほしい」という言葉を受け、持木町長は「証書の重さを感じている。これに応えるべく、町で一番大切な教育・福祉・防災の3つに力を入れていきたい」と話しました。

ではあるが、能登町という土壌の中で町が一つになっていると感じている。

この3年間は集中財政改革期間として住民の皆さんをはじめ、議員や職員の協力で行財政改革を実施してきた。そのおかげで町の財政状況については小さな光が見えてきたが、気を緩めることなく行財政改革を進めていく。

―二期目の抱負は

選挙ポスターのキャッチフレーズは『協働のまちづくり ふるさと振興 創ろう能登ものがたり』。『協働』は住民の目線を大切にする。行政だけではなく、住民や団体などの皆さんの声やアイデアを大切にしていきたいと考えている。「ふるさと振興」は古里能登町を愛してもらふこと。住民の皆さんに能登町の知らないことや知っていても当たり前になっていた気付かなかったことなどを知ってもらい能登町を愛してもらふ。そのために「ふるさと振興課」も創設した。「能登ものがたり」に関しては、今までの4年間はブローグであり、これから能登町独自の「能登ものがたり」を創っていく。もちろん物語の主役は住民の皆さんであり、共に物語を創ってきたい。

―具体的に実施していくことは

まずは宇出津駅の利活用の実施設計を行う。あの場所をにぎわい創出の場に行きたいと考えている。あとはクロマルハナ

バチ試験飼育の早い段階での事業化を目指す。それによって雇用も生まれる。現在試験飼育の段階だが6月ごろには初出荷を予定しているので、輸送や受粉効果などの成果が分かる。

社会資本の整備も必要だと考えている。道路や住環境を含め、町にはまだまだやらなければいけないことがある。要望もたくさんあるということは、その部分が遅れているということだと認識している。

今年は公共交通の実証運行を行う。能登町にとって本当に良いバスの運行にしたい。特急バスについては珠洲市と一緒にやっていくという話もしている。現在輪島への本数は多いが、例えば能登空港を拠点にすることで、そこから能登町や珠洲市に連結させて、朝早い便や夜遅い便を利用できる体制が作れるのではないかと思います。

―住民の皆さんへのメッセージを

これからの4年間は、能登町にとっても、わたしにとっても真価が問われる4年間になる。大きなプロジェクトではなく、住民の皆さんが望む、きめ細かいこともできるだけ応えていきたい。

ただ、なんでも行政頼みではなく、住民の皆さんには自分たちでできることは自分たちで、地域でできることは地域でという考えをもっていたきたい。それを行政がサポートし、行政がやるべきこととはしっかりとやっていきたい。



能登高校開校式・入学式は4月7日午後1時から同校体育館で行われ、普通科41人、地域創造科55人の新入生が、館校長から入学を許可された。新入生を代表し、清水良雅さん（普通科）と西田聖也さん（地域創造科）が「新しい校風と伝統を築くために努力します」と誓い、能登高校の生徒としての第1歩を踏み出した。

MESSAGE

能登高校へ進学した96人に贈るエール



持木一茂 町長

皆さんの入学した今日からが、歴史の始まりです。顧みますと、明治31年の石川県水産講習所の設立など、いくつかの原点が分離・統合を経て、本日能都北辰高校と能登青翔高校の統合により、能登高校の誕生に至りました。その源流の一つ、能登青翔高校の前身「石川県柳田農学校」の設立は、昭和初期に生垣聞蔵氏いけがき ぶんぞうが当時の農村不況を憂い、未来を背負う農業青年の育成のために自分自身の財産をもって地元の悲願であった学校の設立にこぎ着けたという、他の学校とは違った経緯が

あります。未来ある若者のために教育を受けさせたいという、その当時の思いは私たちも変わることはありません。

能登町出身の坂坦道先生さかたんどうが製作した「丘上のクラーク像」でも有名なクラーク博士は、「Boys be ambitious」「少年よ、大志を抱け」という言葉を残されています。「ambitious」という言葉には「野心的な」という意味合いもありますが、皆さんにはそれくらいの心を持ってほしいと思います。早く大きな目標を掲げ、今自分が何をすべきかを理解し、ゴール目指して駆け行くことが充実した高校生活を送るための第一の項目です。

皆さんは必要とされている人間ばかりです。勉強やスポーツなど、能登高校で沸き起こる全ての感情が、将来の皆さんを大きく、豊かにするはずです。



谷本正憲 知事

能登高等学校の第1期の入学生なるとこうがっこうの皆さん、ご入学おめでとうございます。

本県では、21世紀にふさわしい高等学校教育の充実と、生徒同士がお互いに競い合い、切磋琢磨できるよりよい環境づくりを目指し、県立高等学校の再編整備を進めてまいりました。そして本日、その一環として能登高等学校が開校の運びとなりました。

この能登高等学校は、能都北辰高等学校と能登青翔高等学校の良き伝統を継承すると同時に、普通科と本県では初めての

地域創造科を有する特色ある学校であります。新入生の皆さんは、この新しい教育環境の下で学ぶ記念すべき第1期生となります。能登高等学校は「自己の生き方・在り方を主体的に考え、自己実現を目指してひたむきに努力する人間」、「社会人としての基礎・基本を備えた、健康で活力にあふれた人間」、「ふるさとに誇り持ち、地域の文化や産業の発展に貢献する人間」の育成を目指しています。

本日入学された第1期生の皆さんは、本校が目指している理念をしっかりと胸に刻み、学習や部活動、ボランティア活動などに積極的に取り組んでください。そして心身共に健康で、自ら学び行動する意欲と態度を持ち続け、自らの人生を切り開いていくことを心から期待しています。

能登高校、船出。

4月、能登町に新しい高校が誕生した。能都北辰高校と能登青翔高校の歴史・文化を受け継ぐ能登高校。県内唯一となる「地域創造科」と「普通科」を有し、特色ある学校を目指すという。地域創造科では何を学び、どのような生徒を育てるのか、普通科の目標は一。少子化・定員割れという荒波の中を、町唯一の高校として船出した能登高校をレポートする。



開校式・入学式に先立ち、谷本知事、館校長、新入学生の手で「石川県立能登高等学校」の看板が、正面玄関に掲げられた。

平成12年に宇出津と水産が統合して能都北辰が誕生し、14年に柳田農業と町野が統合して能登青翔が誕生してからまだ10年と経過していない。しかし、急激に進む少子化の波が能登地方の高校再編を加速させた。

20年4月、珠洲実が飯田、輪島実が輪島、中島が七尾東雲に統合された。そして本年4月には、能都北辰と能登青翔、高浜と富来が再編され、それぞれ「能登高校」「志賀高校」が誕生した。

「地域の期待と信頼に応えられる学校にしたい」

4月7日に行われた能登高校開校式で、館一成校長は能登町唯一の高校としての決意を語った。わたしたちも無関心ではいけない。地域の高校を守り、育てていくのは地域に住むわたしたちでもあるのだから。

（6・7ページに館校長インタビュー）



Top Interview

子どもたちの夢に応えられる学校に――。

能登高校の特色でもある地域創造科とは？

地域創造科は、県下どこにもない特色を持っています。今までは1次・2次・3次産業をそれぞれ単独で学ぶことしかできませんでした。地域創造科では生産から加工、流通、販売まで横断的に学ぶことができます。

能登の基幹産業である農業、漁業に加工技術を加えることで付加価値を高め、自分たちで販路を作り、値段を決める――といった新しいビジネスを生み出すことができます。地域創造・発展につなげることができる。自分で仕事をつくり、能登での生活基盤がしっかりすれば地元に残る若者はきつと増えます。



館 一成 校長

たち・かずしげ

子どもたちには、わたしたち大人にはない感性や発想があります。学校としても大学や県の試験場などと連携しながら、子どもたちのアイデアを生かし、育てられるような商品開発や里山里海を保全しながらのビジネスなどを研究していきたいと考えています。

地域産業を担う即戦力を育てるためには、子どもたちが地域を知り、体験することも大切です。知恵と経験が豊富なお年寄りや地域で活躍する人を先生として招き、能登で生きることや能登での仕事について子どもたちに教えてほしいと思っています。まさに地域の子どもの地域が育てるという環境です。

さらに即戦力として就職や起業に役立つ資格取得にも力を入れていきます。

普通科が目指すものは？

前年度までの能都北辰高校普通科の授業数は週32時間でした。週33時間の高校と比べると、それだけで年間35時間、補習なども合わせると70時間以上授業数に差があるという状況でした。

能登高校普通科では、授業時間を週33時間とし、さらに土曜スクールや夏休み、冬休みの全員補習も行います。昨年の1年生と比べると約100時間授業数などが増えることになります。1年生だけではなく、能都北辰の生徒にも力を入れ、2年生で約70時間増やします。生徒たちの意識を変えながら、導いていかなければならないと考えています。

授業数を増やしてまで目指すものは、もちろん生徒たちの進学、そして公務員試験です。能登高校の前身でもある宇出津高校は、公務員試験に強い高校として県下でも有名でした。わたしは能登高校普通科を「進学できる高校」「公務員試験に強い高校」としてよみがえらせたいと思っています。

地域の高校としての思いは？

地域の期待と信頼に応え、魅力ある学校にしていくためには①進学実績②部活動の活性化③資格・検定――この3つの充実が欠かせません。今年入学した1年生が卒業する3年後まで待つのではなく、

能都北辰の生徒である2、3年生の指導にも力を入れていきます。

そして能登高校の生徒として、古里である能登を誇りに思い、一人でも多く能登に残る、あるいは戻ってくる、都会に出ても古里を自慢できる、そんな子どもたちが生まれてほしいと願っています。

少子化はこれからも進んでいきます。能登高校が地域の高校として存続していくためには、地域の皆さんに関心を持ってもらい、育ててもらう以外に方法はありません。本年度、県立であるこの高校に、能登町から1千万を超える支援をいただくことになりました。この高校を地域の学校として支えていくという強い決意の表れであり、わたしたちも大きな使命と責任を感じています。

奥能登内浦一帯の教育・文化の拠点として、『子どもたちの夢に応えられる学校』として、この学校がいつまでも存続していくことができるよう、活力ある学校づくりを推進していきます。

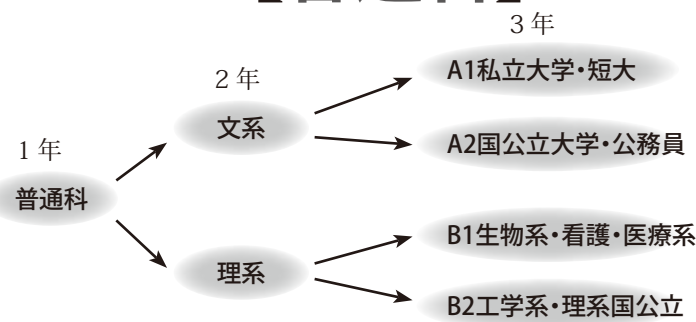
- 平成21年度能登町一般会計
能登高校支援に関する予算
総額 1,120 万円
- ・教室エアコン整備助成
1/2 以内補助 500 万円
 - ・クラブ活動等助成
100 万円
 - ・新入生の制服購入補助
上限 2 万円
 - ・新入生の交通費助成
10 万円超えた部分の 1/2

高い学力、進路目標を実現する【普通科】

**授業数年間
約100時間の増**
(前年度能都北辰1年生比)

①週3回7時間授業
②土曜スクール
③夏休み2週間、冬休み1週間の全員補習

【普通科フローチャート】



地域産業を担う人材を育成する【地域創造科】

**特色ある実習
資格取得も目指す**

〈取得可能、取得を目指す資格〉
農：小型建機、フォークリフト
水：小型船舶、特殊無線技士(2級)
商：簿記(1級)、情報処理(1級)
福：介護福祉士国家試験受験資格(9カ月の実務経験が必要)
その他：ボイラー技士、危険物取扱者(乙種)、情報処理・ワープロ検定、英語・漢字検定など

【地域創造科
フローチャート】

